

ILC（国際リニアコライダー）に関する最近の状況について

1 ILCに関する国内外の動き

2019 年

- | | |
|------|--|
| 3月7日 | 国際将来加速器委員会（ICFA）の会議において、日本政府が初めて ILC 計画への関心を表明 |
|------|--|

2020 年

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 1月30日 | 日本学術会議が「マスタープラン 2020」を公表 |
| 2月20日 | ICFA の会議において、日本政府が見解を表明 |
| 2月22日 | 日本政府の表明を受け、ICFA が国際推進チームの設立を提言 |
| 6月19日 | 次期欧州素粒子物理戦略（欧州の中長期計画）の承認・公表 |

- (1) 1月30日、日本学術会議が「マスタープラン 2020」を公表。ILC 計画は「学術大型研究計画」に選定された。（重点大型研究計画の選定に向けたヒアリング対象 59 件に選ばれた。）
- (2) 2月20日、米国で開催された ICFA の会議において、文部科学省が ILC 計画に係る議論の進捗状況等について、米国の支持を得ていること、欧州（独・仏・英）と協議を始めていることなどを説明し、引き続き、関心をもって日米欧政府間の意見交換を継続すると表明した。
- (3) 日本政府の表明を受け、2月22日、ICFA が 日米欧政府間における議論の進展への評価を示し、建設準備期間移行に向けた、高エネルギー加速器研究機構（KEK）を中心とした国際推進チームの設立を提言した。
- (4) 2019 年 3 月に日本政府が「議論の進捗を注視する」としていた、次期欧州素粒子物理戦略が 6 月 19 日に CERN（欧州合同原子核研究機構）の理事会で承認、公表された。今回公表された欧州素粒子物理戦略では、ILC 計画が具体的にに取り上げられ、ヒッグス・ファクトリーが最優先の次世代加速器実験であること、日本において ILC がタイムリーに進めば、欧州は ILC に協力すること等が明記された。

※ ヒッグス・ファクトリー

2012 年 CERN の LHC（大型ハドロン衝突型加速器）での実験で発見された「ヒッグス粒子」を大量に生成しうる衝突型加速器実験施設のこと。

ヒッグス粒子を大量生成する加速器実験施設の計画は、ILC 以外にも提案されているが、提案されている計画の中では、ILC が一番、低コストで、かつ技術的な検討・準備が進んでいる。

2 岩手県の取組

- (1) ILC の早期実現に向けた関係団体と連携した取組
 - ・ 超党派国会議員連や研究機関、推進団体、地元自治体等と連携した国への働きかけ（令和 2 年 6 月現在の県内における ILC 推進組織 15 団体）
 - ・ 東北の関係自治体等と協力した、国際推進チーム（今夏の設立を予定）への対応（東北 ILC 準備室の後継組織として、地元自治体主体の体制が整備）
 - ・ ILC に関する国民の理解増進のための普及啓発活動
- (2) ILC の建設候補地としての受入れ環境整備
 - ・ 「ILC による地域振興ビジョン」（令和元年 7 月策定）に基づく、加速器関連産業の振興や受入れ環境整備（生活・医療・教育）などの具体化の取組
 - ・ 県民の理解促進に向けた県全域での講演会や解説セミナー、ILC 出前授業（小中学校）の実施（今年度は ILC 出前授業の対象を県北・沿岸地域の小中学校にも拡大）
 - ・ 県内の高校生を対象とした ILC を担う人材育成事業の実施（ILC 推進モデル校の取組（県立高校 10 校）、理科系研究コンテストの開催）